

子ども・子育てに関するアンケート結果報告書

1 調査の目的

本市では、令和元年度に策定した「第2期交野市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間が令和6年度満了となることから、「第3期交野市子ども・子育て支援事業計画」の策定を進めており、計画策定に係る基礎資料として、就学前児童・小学生の保護者の方を対象に、子育て状況、教育・保育ニーズ、子育て支援サービスの利用状況等を把握するために本調査を実施しました。

2 調査概要

調査地域：交野市全域

調査対象者：交野市在住の「就学前児童」のいる世帯・保護者(就学前児童用調査) 1,700人
交野市在住の「小学生」のいる世帯・保護者(小学生用調査) 1,800人

調査期間：令和6年1月15日(月)～2月2日(金)
(その後 紙調査票は2月5日(月)、WEB調査票は2月12日(月)まで延長)

調査方法：住民基本台帳をもとに対象児童のいる世帯を無作為抽出
郵送にて配布し、郵送方式又はWEB方式いずれか任意の方法で回答

3 回収結果

対象	発送数	回収数計	紙回収数	WEB回収数	回収率
就学前児童(0～5歳)の保護者	1,700票	840票	375票	465票	49.4%
小学生(1～6年生)の保護者	1,800票	763票	375票	388票	42.4%
合計	3,500票	1,603票	750票	853票	45.8%

4 報告書の見方

○グラフに付されている「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数(回答者数)を示しています。

○図表の記載にあたり、調査票の質問文、選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

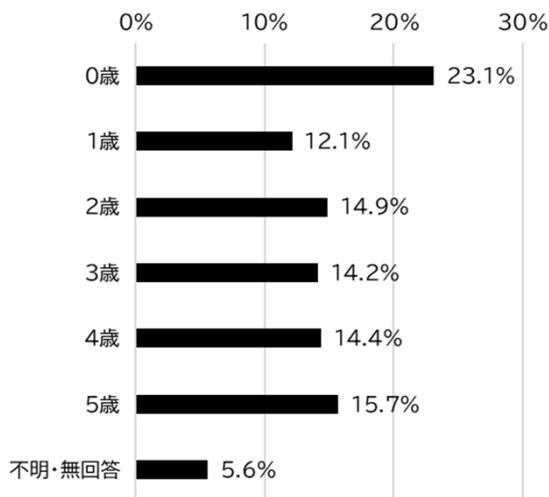
○必要に応じて、平成30年度に実施した「交野市子ども・子育てに関するアンケート」(以下「前回調査」とします)との比較を行っています。

1. ご家族の構成や保護者の働いている状況等について

- ・ お子さんの年齢は、以下のとおりです。
- ・ お子さんの人数は、「2人」が最も多くなっています。
- ・ 回答者の9割前後に配偶者はいますが、小学生保護者では「配偶者がいない」が1割程度となっています。

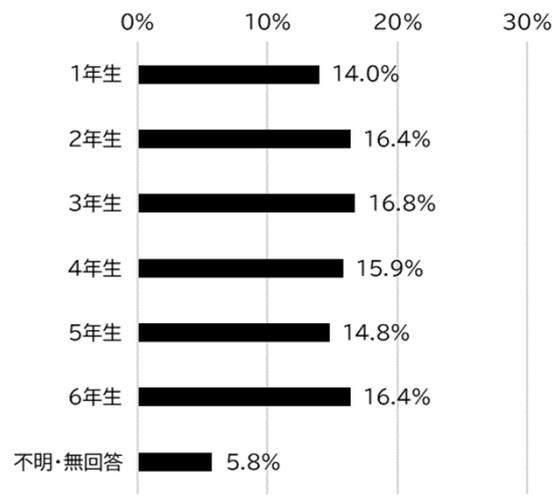
◆お子さんの年齢(就学前:問3)

就学前(n=840)



◆お子さんの年齢(小学生:問3)

小学生(n=763)



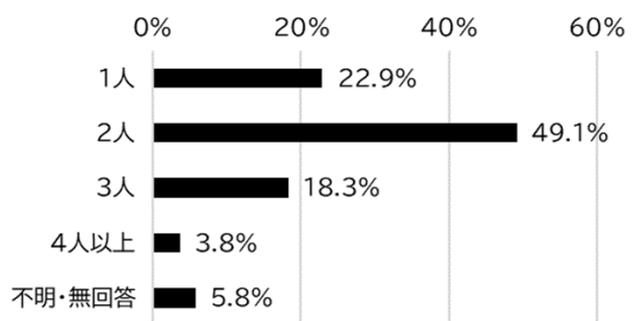
◆お子さんの人数(就学前:問4)

就学前(n=840)

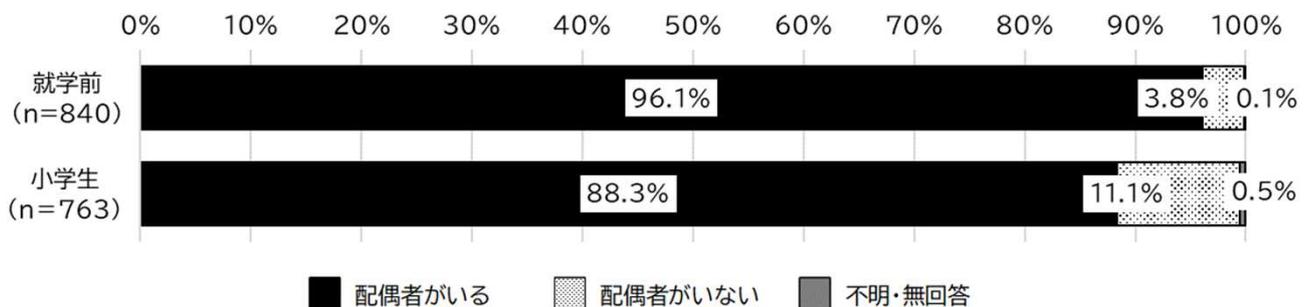


◆お子さんの人数(小学生:問4)

小学生(n=763)

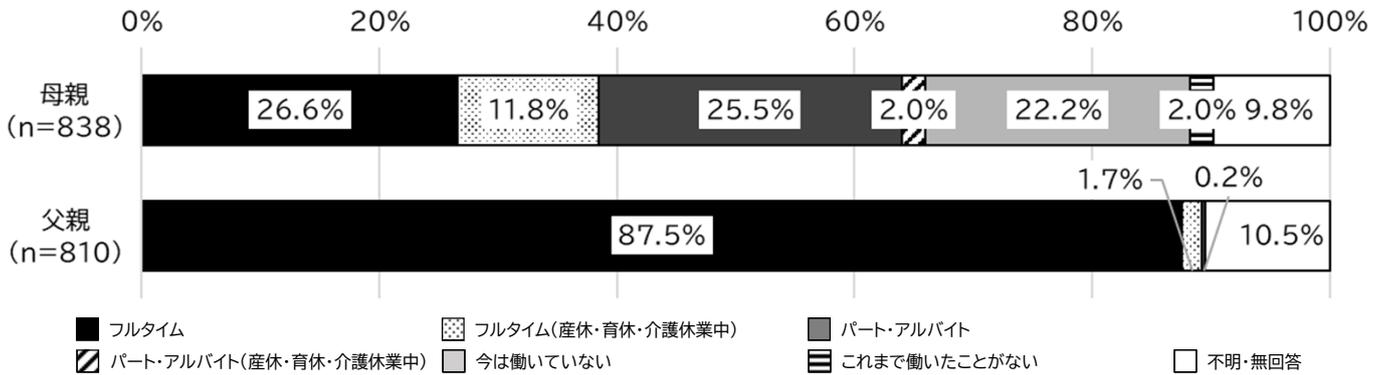


◆配偶者の有無(就学前:問2-1、小学生:問2-1)



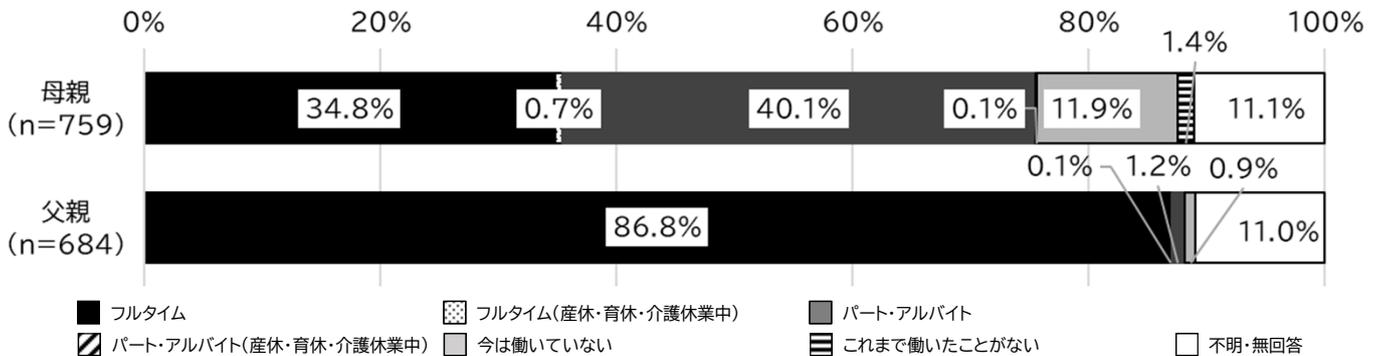
- ・現在の就労状況について、父親は8割強がフルタイムで働いています。一方で母親は、就学前で就労していない人が2割強だったのが、小学生保護者で就労していない人が1割強まで減っています。就労形態はパート・アルバイトが小学生保護者で顕著に割合が高くなっています。
- ・1年以内の就労を希望している母親は就学前保護者・小学生保護者ともに3割強おり、就労を希望する母親の9割強がパート・アルバイトを希望しています。

◆現在の就労状況(就学前:問11)



※父親:「パート・アルバイト(産休・育休・介護休業中)」「今は働いていない」「これまで働いたことがない」は0%

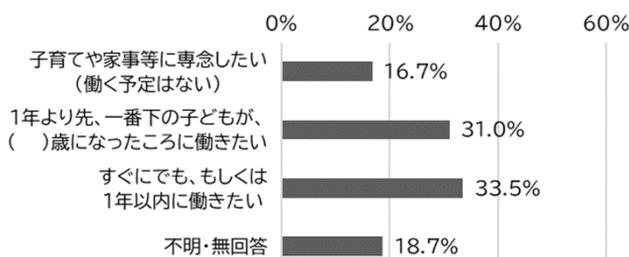
◆現在の就労状況(小学生:問9)



※父親:「パート・アルバイト(産休・育休・介護休業中)」「これまで働いたことがない」は0%

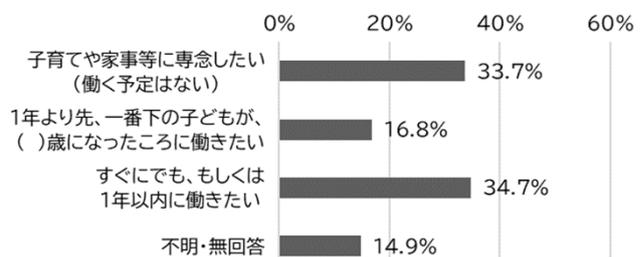
◆母親の今後の就労希望(就学前:問11-4)

就学前(n=203)



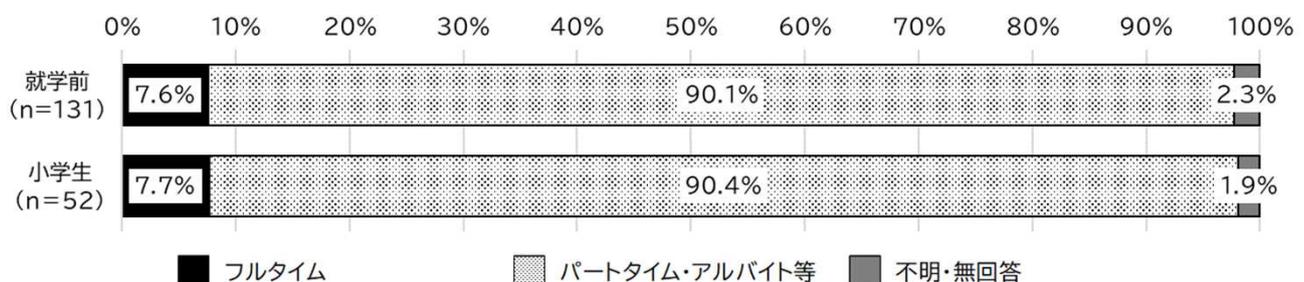
◆母親の今後の就労希望(小学生:問9-4)

小学生(n=101)



※父親は回答対象者数が少ないため、省略

◆母親の今後の希望する働き方(就学前:問11-5、小学生:問9-5)

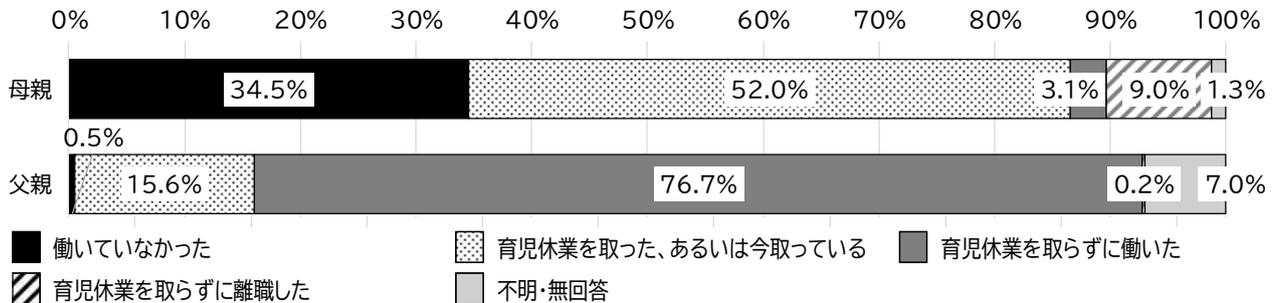


2. 育児休業の取得状況等について

- ・ お子さんが生まれたとき育児休業を取得した人は、母親で5割程度、父親で2割弱となっています。
- ・ 母親が育児休業を取らずに離職した理由として、「子育てや家事に専念するため」が最も多く、次いで「仕事に戻るのが難しそうだった」「職場に育児休業の制度がなかった」となっています。
- ・ 父親が育児休業を取らずに働いた理由として、「仕事が忙しかった」が最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」となっています。

◆育児休業の取得状況(就学前:問18)

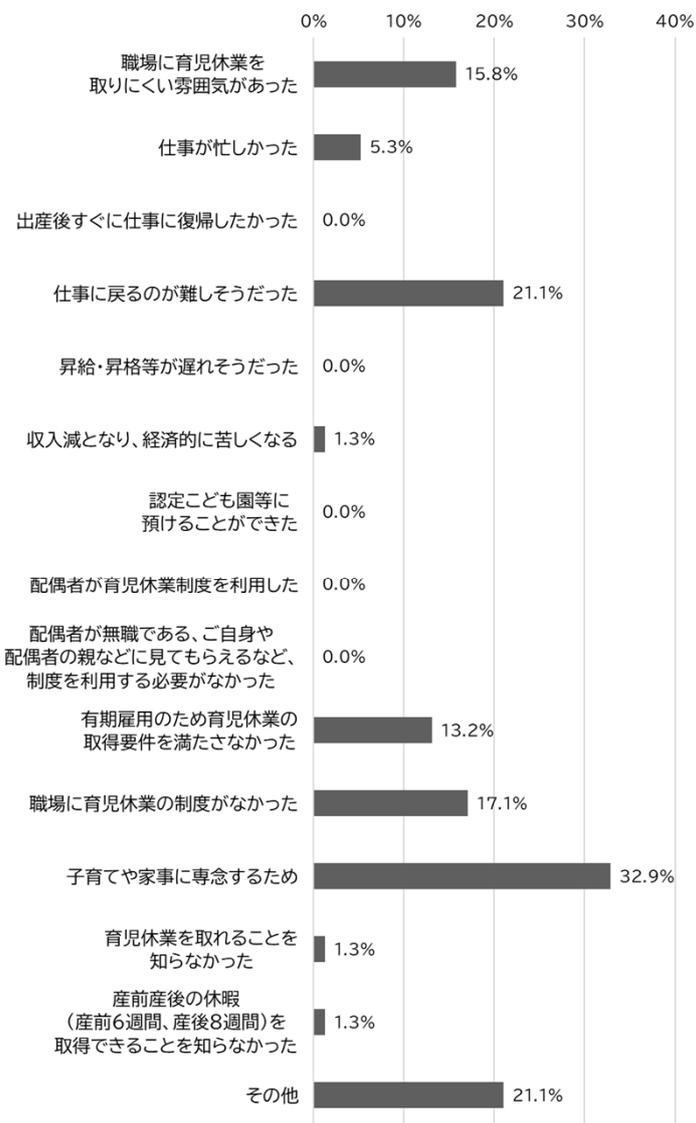
就学前(n=840)



◆母親・育児休業を取らずに「離職した」理由

(就学前:問18)

就学前(n=76)

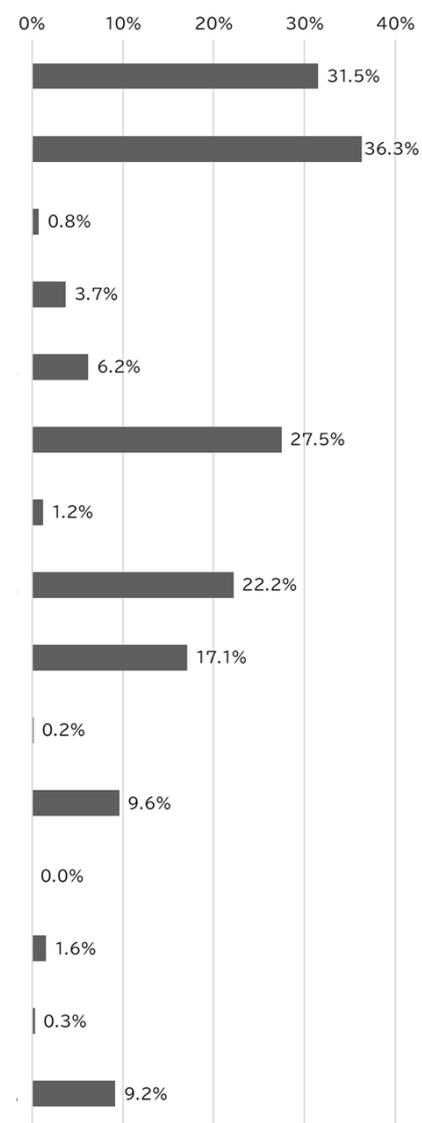


※不明・無回答を除く

◆父親・育児休業を取らずに「働いた」理由

(就学前:問18)

就学前(n=644)



※不明・無回答を除く

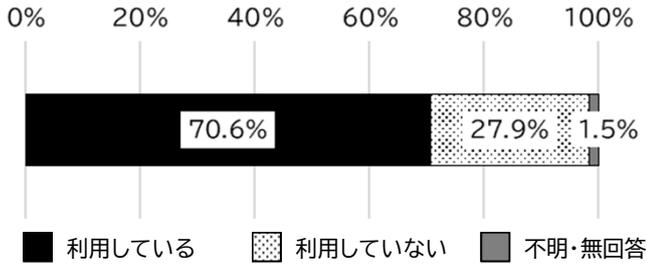
3.定期的な教育・保育等の施設の利用について

- ・ 幼稚園や認定こども園等を定期的にご利用している人は、7割程度となっています。
- ・ 利用している施設やサービスは、市内の施設状況もあり「認定こども園(幼保連携型)」「幼稚園」、「認定こども園(保育所型)」が高くなっています。
- ・ 市内の認定こども園の数が増加し、幼稚園の数が減少する等の要因もあり、前回調査と比較して「認定こども園(幼保連携型)(幼稚園型)」の利用が増加し、「幼稚園(通常の就園時間利用)」「認定こども園(保育所型)」の利用が減少しています。
- ・ 今後利用したい施設やサービスは、「認定こども園」が5割程度となっており、「幼稚園+幼稚園の預かり保育」「幼稚園(通常の就園時間利用)」「保育所」はともに3割以上となっています。

◆定期的な幼稚園や認定こども園等の利用

(就学前:問12)

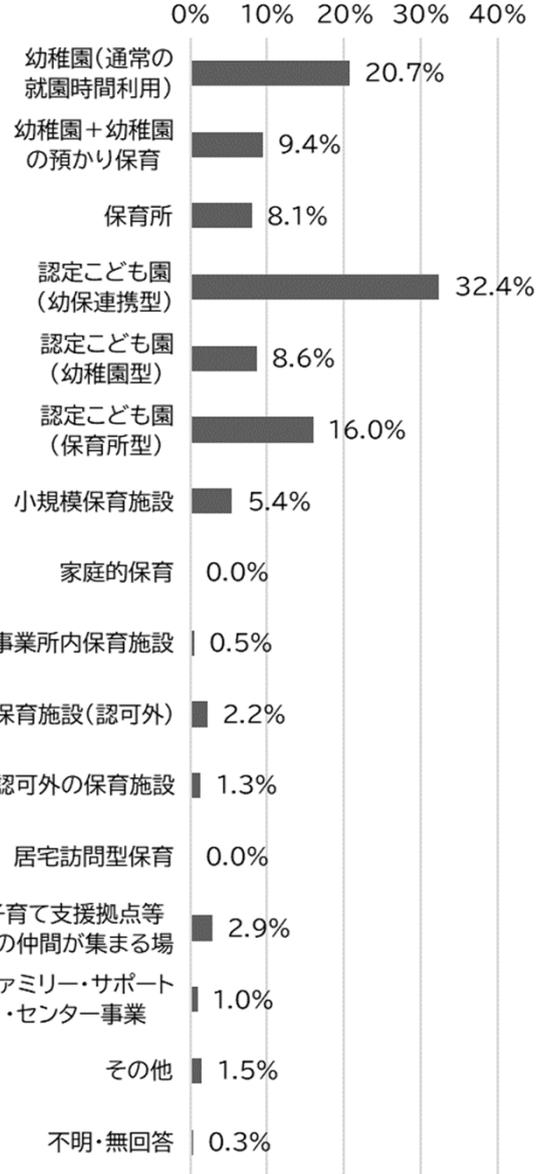
就学前(n=840)



◆利用している施設やサービス

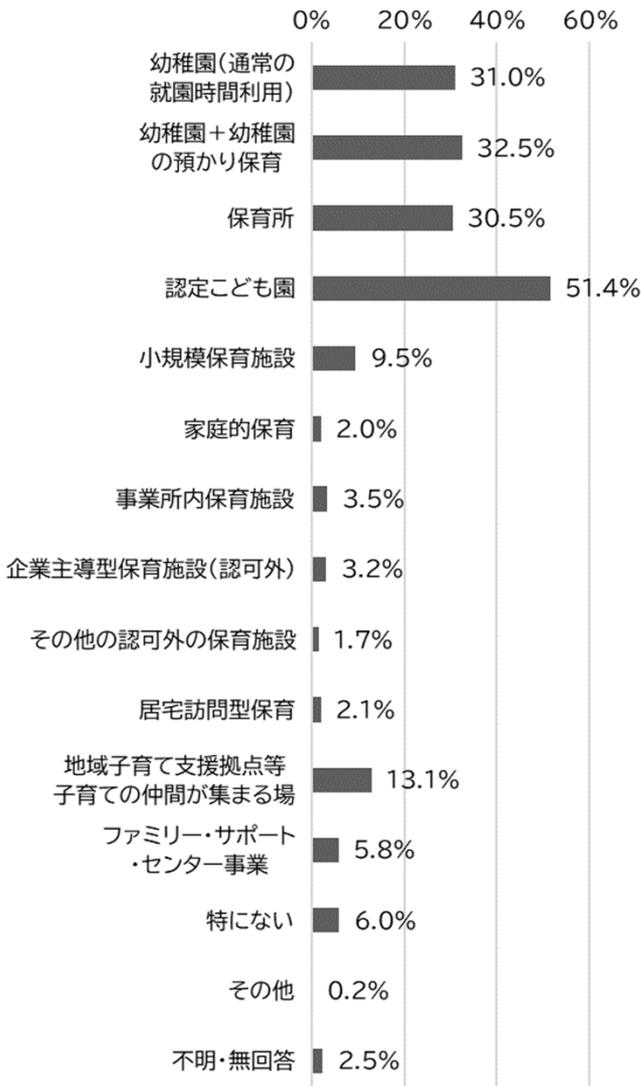
(就学前:問12-2)

就学前(n=593)



◆定期的にご利用したい施設やサービス(就学前:問15)

就学前(n=840)



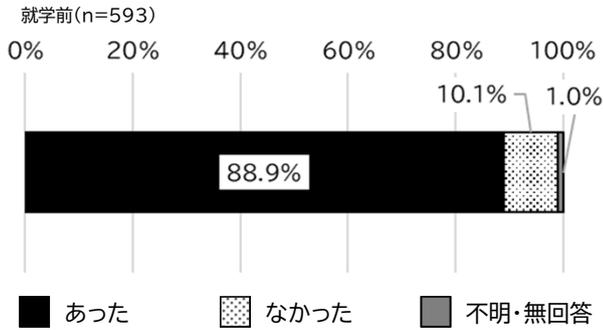
(参考)交野市の施設類型ごとの運営数(令和6年2月1日現在)

- ・ 幼稚園 : 3施設
- ・ 保育所 : 2施設
- ・ 認定こども園(幼保連携型) : 10施設
- ・ 認定こども園(保育所型) : 1施設
- ・ 認定こども園(幼稚園型) : 2施設
- ・ 小規模保育施設 : 8施設

4. 病気等になったときや不定期の施設利用について

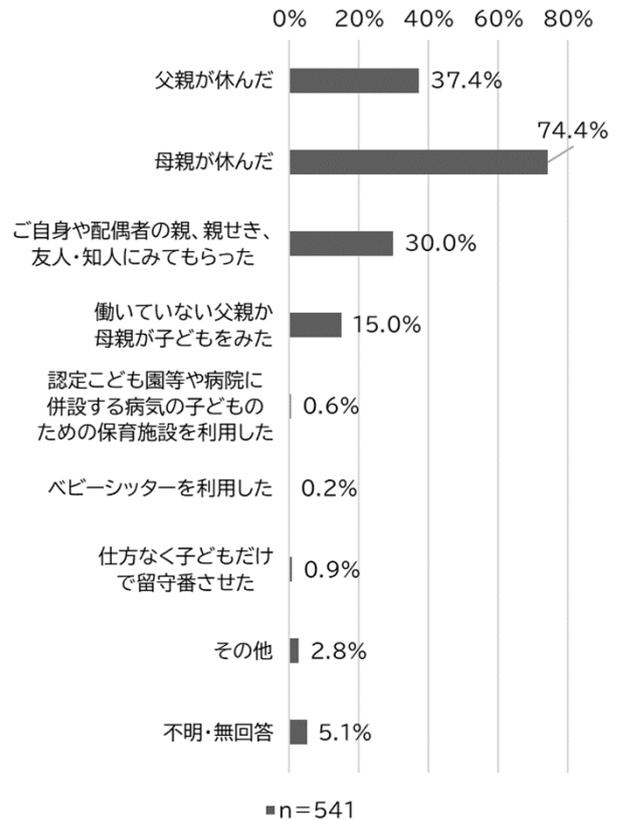
- ・ 病気やけがで、幼稚園や認定こども園等の施設やサービスを利用できなかったことは、9割弱が「あった」と回答しています。
- ・ 1年間の対処方法は「母親が休んだ」が最も高くなっています。
- ・ お子さんが病気やけがの際の理想的な対応は、優先順位1位は「仕事を休むなりして親が対応する」、優先順位2位で「祖父母等の親せきに預けて対応する」が最も高くなっています。

◆病気やけがで、幼稚園や認定こども園等の施設やサービスを利用できなかったこと (就学前:問13)



◆1年間の対処方法(就学前:問13-1)

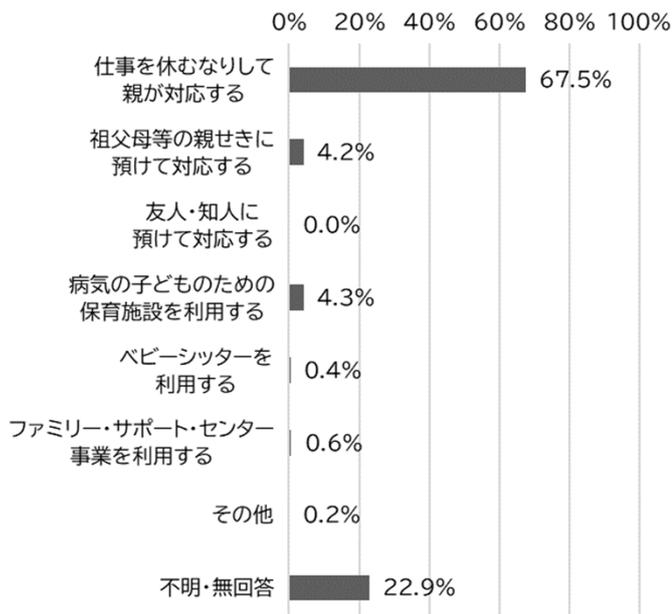
就学前(n=527)



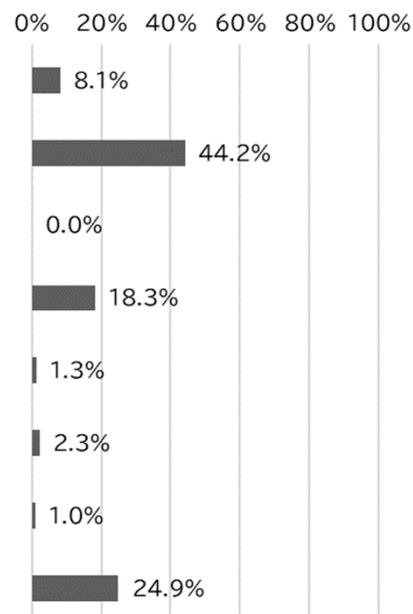
◆お子さんが病気やけがの際の理想的な対応(就学前:問14)

就学前(n=840)

<優先順位1位>



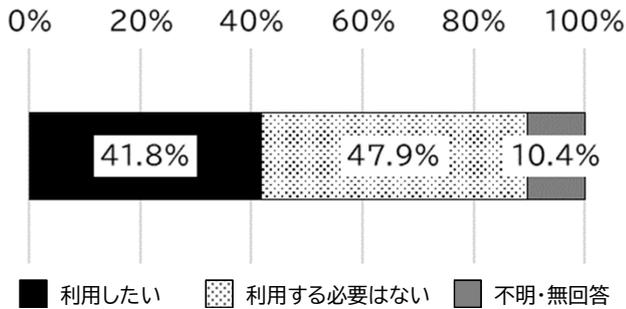
<優先順位2位>



- ・ 不規則な就労や通院等を理由として、認定こども園等で実施されている「一時預かり」を利用したいと思うかについて、4割程度が利用したいと回答しています。
- ・ 利用目的については「買物、子どもたちやご自身の習い事、リフレッシュ」が7割弱、「冠婚葬祭、学校行事、子どもたちや親の通院等」が5割強となっています。また国が新設を検討している、「こども誰でも通園制度」は利用希望頻度は様々であるものの、7割強が利用したいと回答しています。
- ・ 保護者の用事により、泊まりがけで家族以外にこどもを預けるサービスについて、1割強が利用したいと回答しています。

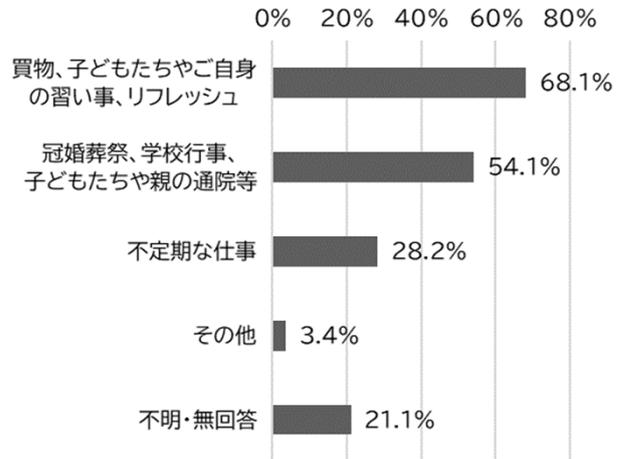
◆不規則な就労や通院等を理由にした「一時預かり」の利用意向(就学前:問24(1))

就学前(n=840)



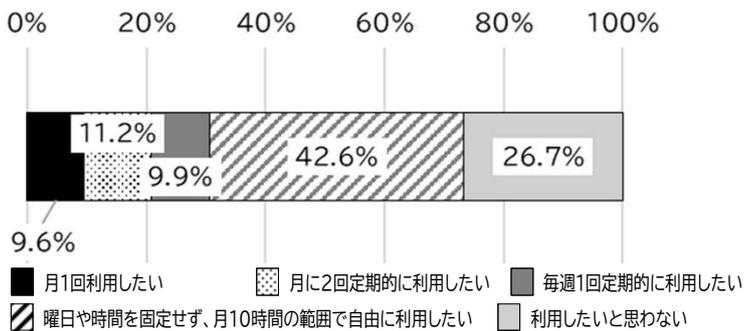
◆不規則な就労や通院等を理由にした「一時預かり」の利用目的(就学前:問24(2))

就学前(n=351)



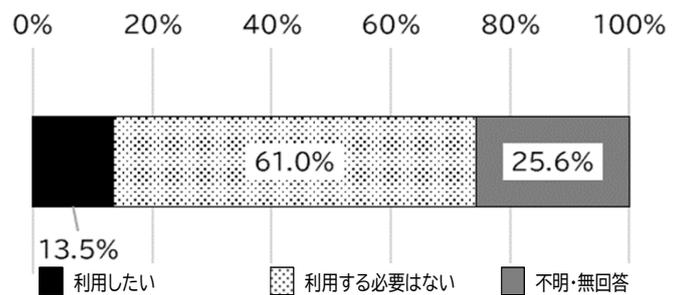
◆「こども誰でも通園制度(月に10時間まで)」が創設された場合の利用意向(就学前:問24-2)

就学前(n=303)



◆泊まりがけで家族以外にこどもを預けるサービス(短期入所生活援助事業(ショートステイ)の利用希望の有無)(就学前:問25)

就学前(n=840)



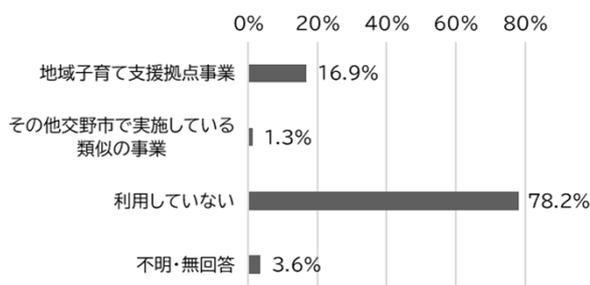
5. 地域子育て支援拠点の利用状況について

- ・ 地域子育て支援拠点を利用している人は2割を切っていますが、今後利用したい、または今後利用を増やしたい人は3割弱となっています。

◆地域子育て支援拠点の利用状況

(就学前:問26)

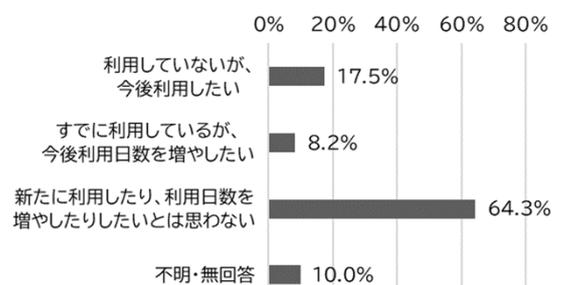
就学前(n=840)



◆地域子育て支援拠点の利用意向

(就学前:問27)

就学前(n=840)



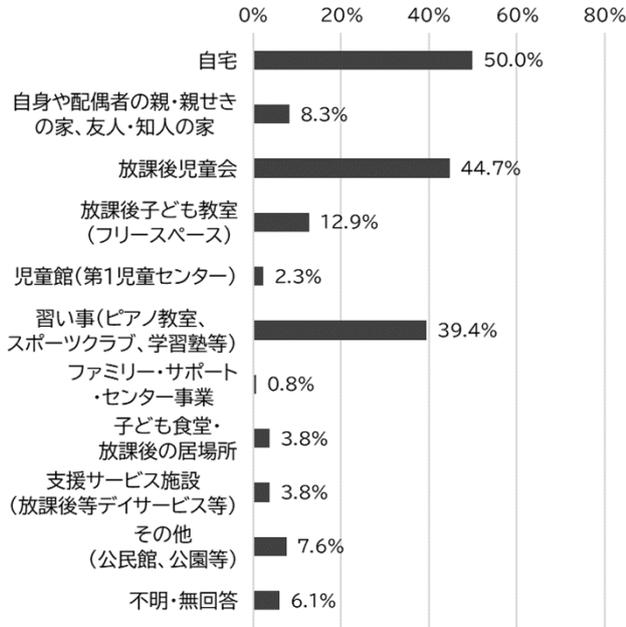
6. 放課後の過ごし方について

- ・ 放課後過ごさせたい場所について、低学年・高学年いずれも「自宅」が最も多くなっています。次いで低学年では「放課後児童会」が4割強となっており、高学年では「習い事」が4割程度となっています。放課後児童会の利用希望は、低学年では4割強ある一方で、高学年になると2割程度となっています。
- ・ 放課後に1番よく過ごす場所は自宅が平日で7割弱、休日で8割以上と最も多くなっています。放課後児童会は平日で1割強となっています。
- ・ 平日の放課後児童会の利用状況については、「利用していない」が8割程度と多くなっています。

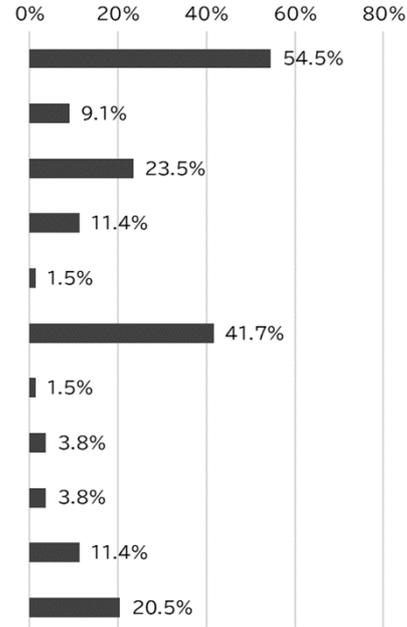
◆放課後に過ごさせたい場所(就学前:問22(1))

就学前(n=132)

*小学校低学年(1～3年生)



*小学校高学年(4～6年生)



◆放課後に1番よく過ごす場所(小学生:問14)

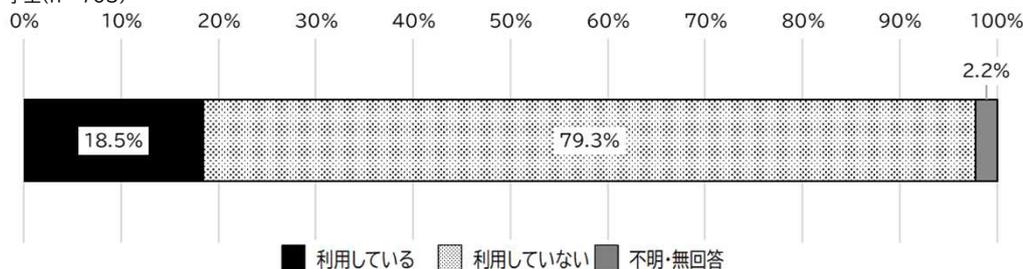
小学生(n=763)

1番目によく過ごす場所	平日		土曜日		日曜日	
	件数	%	件数	%	件数	%
自宅	498	65.2	621	81.4	630	82.6
祖父母の家	18	2.4	12	1.6	12	1.6
友人の家	17	2.3	4	0.5	5	0.7
塾	9	1.2	6	0.8	2	0.3
習い事	41	5.3	55	7.2	44	5.8
学校(クラブ活動等)	19	2.5	12	1.6	13	1.7
公園・広場	43	5.6	17	2.2	12	1.6
コンビニエンスストア	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ゲームセンター	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放課後児童会	96	12.6	8	1.0	1	0.1
図書館や公民館等 公共の施設	0	0.0	0	0.0	0	0.0
スーパーやショッピングモール	0	0.0	8	1.0	21	2.8
支援サービス施設(放デイ等)	4	0.6	1	0.1	0	0.0
地域の居場所	0	0.1	0	0.0	0	0.0
その他	2	0.3	6	0.8	8	1.0
不明・無回答	14	1.8	13	1.7	15	2.0

※平日の件数について、月曜日-金曜日の件数の平均値を四捨五入して記載しています。

◆平日の放課後児童会の利用状況(小学生:問16)

小学生(n=763)

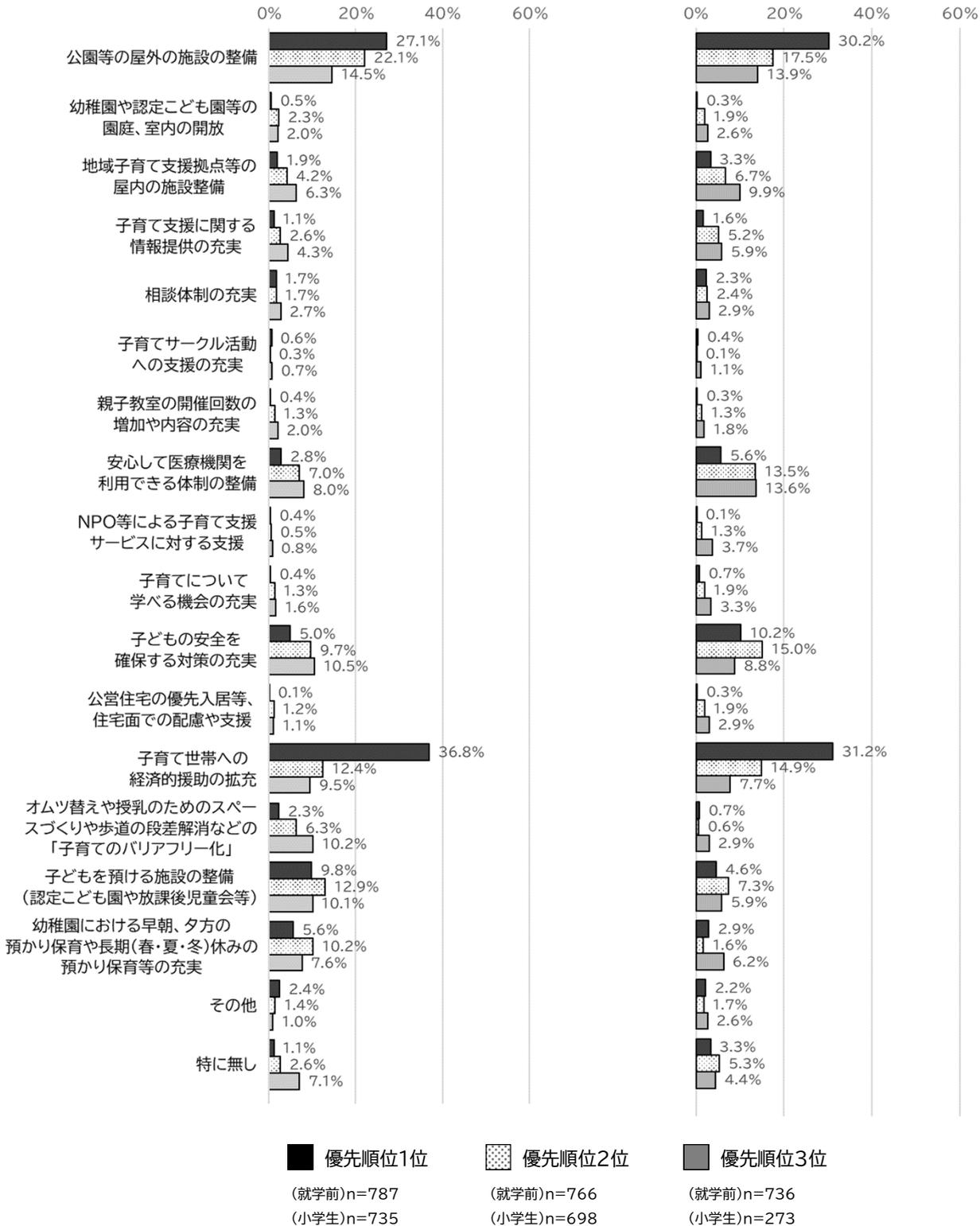


7. 市役所等への要望について

・ 充実してほしい子育て支援サービスは、「子育て世帯への経済的援助の拡充」が最も高く、次いで「公園等の屋外施設の整備」となっています。

◆ 充実してほしい子育て支援サービス
(就学前:問40)

◆ 充実してほしい子育て支援サービス
(小学生:問34)



※不明・無回答を除く

発行年月:2024(令和6)年3月

発行:交野市 健やか部 子育て支援課

〒576-0034 大阪府交野市天野が原町5-5-1

TEL:072-893-6406 FAX:072-892-0525